

米ソのデタント

- 1) 1960年代末から1970年代にかけて米ソ間ですすめられた緊張緩和を【1: 】という※1。米ソの対立は1962年のキューバ危機で頂点に達し、核戦争寸前にまで至った。その後、米ソは核戦争の防止に共通の利益を見出すようになり、ヨーロッパにおける相互の勢力圏を尊重するようになった。また、米ソの軍事力がほぼ対等になったこと、ソ連における農産物の生産・流通の失敗でアメリカ合衆国の協力が必要になったこともデタントの到来の一因となった。米ソデタントの産物が**戦略兵器制限交渉 (SALT)** である。以下、アメリカ合衆国を単にアメリカと記す。
- 2) 1966年、ソ連のブレジネフ書記長、後に発足する全欧安全保障協力会議 (1975年) を提案した。
- 3) 1969～1972年 **第1次戦略兵器制限交渉 SALT I** アメリカ大統領は【2: 】、ソ連書記長はブレジネフ。No.202で述べたが再掲：ICBMとSLBMを当時の水準で凍結する、ABM配備は国内2カ所のみとする。
- 4) 1972～1979年 **第2次戦略兵器制限交渉 SALT II** アメリカ大統領はカーター、ソ連書記長は【3: 】。戦略核兵器の発射台数や核弾頭の数について上限を決めた。妥結の半年後に、ソ連が【4: 】に侵攻したためアメリカは批准せず。発効しなかった。
- 5) 1979年のソ連の【4】侵攻によってデタントは終わり、「新冷戦」時代に突入する。

※1 1955年から1960年代の「雪どけ」に次いで、1960年代末から1970年代にかけてがデタント。

ブランドの東方外交

- 1) 西ドイツの社会民主党を中心とする連立政権である【5: 】政権 (任1969-74 社会民主党) もデタントを促進させた。ブランドの外交政策は「【6: 】」と呼ばれている。彼は、西ドイツ経済の発展には東欧諸国との関係正常化が必要であると考えた。以下はその要点である。
- 2) 第二次世界大戦における自国の戦争責任についてきちんと謝罪した。1970年、**ワルシャワのユダヤ人ゲットー跡地で跪いて献花、第二次世界大戦下の【7: 】に謝罪の意を表した。**この行動は今日でこそ正当に評価されているが、当時は保守派の政治家から激しく攻撃された。
- 3) 1970年、ソ連と武力不行使協定締結、【8: 】との戦後国境 (オーデル=ナイセ線) を認め国交正常化条約締結。オーデル=ナイセ線は、東ドイツは既に1950年に承認。1990年に統一されたドイツは同年これを承認。No.191参照。
- 4) 1972年、米英仏ソ4国がベルリンの現状維持協定を結んだのを受けて、【9: 】を締結し、東西ドイツは相互に承認しあい、翌1973年に東西ドイツは同時に国連に加盟した。
- 5) ブランドは在任中の1971年にノーベル平和賞を受賞している。しかし、1974年、秘書の一人が東ドイツのスパイとして逮捕された (ギョーム事件) 責任をとって辞任した。

ヘルシンキ宣言

1975年に、【10: 】にアルバニアを除く全ヨーロッパ諸国とアメリカとカナダの首脳が参加して、全欧安全保障協力会議 (CSCE) が開催された。この首脳会議の最終合意文書がヘルシンキ宣言である。人権尊重を国際行動原則に取り入れ、主権尊重、武力不行使、科学・人間交流など東西間の関係改善をうたったものである。全欧安全保障協力会議は、【11: 】 (OSCE) として常設の地域機構となった。

1970年代の南ヨーロッパ

- 1) ポルトガルでは、1933年から続いた【12: 】体制が、1974年に崩壊し、ギニアビサウ・アンゴラ・モザンビークが独立した。詳細はNo.185参照。
- 2) スペインでは、1939以来独裁者だった【13: 】が1975年に死亡。フランコに指名されたファン=カルロス1世がブルボン朝を復活させ、王政となった。1977年の政治改革法成立につづき、78年には新憲法が制定され、王政の下で民主化が進んだ。1986年にECに加盟。
- 3) ギリシアは、1967年以降軍事政権だったが、1975年、新憲法を採択し、共和政に復帰した。

大躍進

No.194からつづく

以下、中華人民共和国を単に中国と記す。

- 1) 中国は【14: 】 (マオツトソン 1893-1976) の下、社会主義経済の建設に着手した。1953年～57年の第1次五か年計画は、あまりにも急激に社会主義化を強行したので大混乱を招いた。多くの批判を浴びた**毛沢東は劉少奇、鄧小平らの穏健派を抑え込んで自らの権力を守るために、**1957年、さらに強引な【15: 】運動を提起した。
- 2) 「大躍進」運動の具体化として第2次五か年計画 (1958年開始だが立ち消えになり終期は不確定) が実施され、1958年、農業集団化のため【16: 】を全国に設立した。人民公社化や電力網、道路網の建設を推進、社会主義国家建設を急いだ。急激な改革であり、大規模集団化を性急に進めたり、専門技術を軽視したり※2したため、運動は失敗し大きな経済的混乱を招いたばかりか、1959年から3年続いた凶作などで、餓死者1500万人とも言われる犠牲者を出し、生産は停滞した。この大失敗によって毛沢東は、1959年、国家主席の地位を劉少奇に譲った。1959年、かわって政権を担当した【17: 】 (リュウシャオチー 1898-1969) は経済計画を見直し安定した社会主義建設を目指した。
- 3) 中国は【18: 】で漢人への同化や社会主義化を強制したため、各地でチベット民衆の反乱が起き、1959年、ラサ市民が反乱を起こし、中国人民解放軍がこれを鎮圧した。このとき、【19: 】はインドに亡命した。このことがきっかけとなり、中国とインドの国境で武力衝突が起きた。後掲
- 4) 毛沢東は国家主席の座を退いたが、党主席にとどまり、あくまでアメリカとは対決する、ソ連の平和共存路線は誤りだと

主張した。これに対してソ連は、対抗措置をとり、中ソ対決は63年から公開論争になり、69年には国境で軍事衝突まで起きた（後掲）。党主席である毛沢東のこのような方針は中国の利益にならないと考える者もいて、党内部でも対立を引き起こした。

※2 たとえば、田植えの時、苗の密度を2倍にすれば2倍収穫できるはずだ、とか農村ごとに簡易製鉄をすれば莫大な鉄が生産出来るとか。前者は風が通らず病害虫も発生してイネは全滅した。後者は低温で製鉄した鉄は脆くて使用に耐えなかった。

文化大革命とは何か？

- 1) 党中央からの失脚を恐れた毛沢東は、1966年、軍の指導権を握っていた【20: 林彪】リンビャオ 1907-71 らとともに、プロレタリア文化大革命と自称するクーデタを起こした。すなわち、彼らは当時権力の中核にいた劉少奇、【21: トンシャオピン 1904-97】らに「資本主義の道を歩む実権派」（走資派）などのレッテルを貼り付け、毛沢東に忠誠を誓う学生たち（＝【22: 紅衛兵】）を動員して大衆的批判を扇動し、人民解放軍も同調させて権力を奪った。思想闘争の形を借りた、実は醜い権力闘争である。劉少奇は失脚し、その後、国家主席は廃止された。劉少奇は、抗日戦争の功労者であるにもかかわらず、あらゆる公職と名誉を剥奪され獄死している。
- 2) 毛沢東たちは権力の奪取には成功したが、中国国内の政治・経済・社会は大混乱に陥った。容赦ない思想弾圧の嵐が吹き荒れ、同調しない者は大衆的批判に曝され辱められた※3。毛沢東の革命理念により多くの学生が農村に移住させられた（下放）。毛沢東の政策による犠牲者は数千万人にのぼるとされている。
- 3) 文化大革命は実質1970年代初頭には終息に向かい、1970年代から人民公社やその下にある生産大隊の経営する工場（社隊工業）が発展し、後の郷鎮企業につながっていく。
- 4) 1971年には林彪が失脚し、76年1月に周恩来、9月に毛沢東が死ぬと、【23: 華国锋】首相は、毛沢東の死後もその権威を利用して権力を握っていた【24: 華国锋】※4を逮捕(1976年10月)した。中国は復元力を発揮し、1977年には文化大革命は終わった。

※3 文化大革命の名の下に、抗日闘争に輝かしい経歴を持つ党幹部や多くの真面目な学者や教育者、芸術家がいわれなき批判と迫害を受けた。「ソーカツ（総括）しろ!」「ジコヒハン（自己批判）せよ!」は当時日本でも（パロディーとして）よく使われた。後年、タモリさんもネタにしている。実際、たとえば世界的水準の研究者が「くだらない研究に没頭し、人民の労苦を忘れていました」と「自己批判」させられ、農村に「下放」されて白菜の収穫をした。このため中国の科学技術や各分野の専門的研究、芸術は10年は遅れたと言われている。長い歴史を刻んできた貴重な文化財が「反階級的である」との理由で数多く破壊された。また、世界の民族運動や進歩的政治運動に与えた否定的影響は計り知れない。たとえば、彼らは日本の革命運動にも干渉し、日本共産党に武装蜂起路線への転換を迫った。赤い毛沢東語録を手にした紅衛兵集団の映像は世界中のメディアで紹介された。当時、わが国のメディアのほとんどすべては文化大革命を賞賛し好意的に報道した。当時この醜い権力闘争を絶賛した「文化人」の多くも、反省の弁はない。

※4 四人とは江青、張春橋、姚文元、王洪文である。

- 5) 1981年、鄧小平を中心とする新指導部は「四つの現代化」を推進した。その後は、改革・開放路線に転じた。

中ソ対立と米中関係

- 1) スターリンの死(1953)後、1956年、ソ連共産党第20回大会でフルシチョフはスターリン批判を行い、平和共存政策を打ち出した。中国は、ソ連の平和共存政策を対米妥協であると批判してソ連と対立した。これが、いわゆる【25: 中ソ対立】であり両国の関係は急速に最悪になった。
- 2) 1960年、ソ連が中ソ技術者協定を破棄し、中国から技術者を引き揚げると、中ソ対立は決定的。1962年のキューバ危機以降は公開論争に発展、66年の文化大革命以降は、ソ連は「中国は教条主義」、中国は「ソ連は修正主義」と相互にののしりあった。
- 3) 1959年3月、チベットのラサではチベット仏教の僧侶を中心に独立をめざす反乱が起きた。人民解放軍は反中国蜂起として鎮圧した。1959年4月、指導者のダライ=ラマ14世がインドに亡命したことから、中国・インドの緊張は高まり、1962年には両国による大規模な軍事衝突が起こった。これが【26: 中印戦争】である。
- 4) 中ソ対立は国境紛争に発展した。国境紛争は1960年代に始まり、1969年3月の珍宝島（ダマンスキー島）での軍事衝突では双方に多数の死傷者が出て、ソ連が核兵器の使用に言及するなど激しい対立となった。中ソ対立は、1980年代からやや緩和され89年のゴルバチョフ訪中で対立は終わった。珍宝島は88年の中ソ交渉で中国領とされた。
- 5) 1964年、中華人民共和国は核兵器の実験に成功し核保有国となった。
- 6) 中ソの国境紛争は、アメリカと中華人民共和国を接近させた。アメリカにとってはベトナムから撤退するためには不可欠の条件だった。なお、アメリカと台湾の中華民国との事実上の軍事同盟は現在も存続している。

1971年7月、キッシンジャー訪中。翌年のニクソン訪中を宣言。

1971年10月、国連総会は中華人民共和国の加盟を可決。中国の国連での代表権を継承。

この時、台湾の中華民国は事実上国連から追放された。

1972年2月、【27: 田中角栄】大統領訪中。日本の首脳は事前に知らされていなかった。

米中共同声明で、アメリカは中華人民共和国を事実上承認した。

1972年9月、日本の【28: 田中角栄】首相も中国を訪問、【29: 毛沢東】で国交を正常化した。

1972年10月、中華人民共和国からパンダが贈られた。オスがカンカン（康康）、メスがランラン（蘭蘭）。上野動物園で公開され長蛇の列ができた。日本で初めてパンダを飼育した飼育員の奮闘は「プロジェクトX」で紹介された。2頭は現在剥製となって多摩動物園にいる。パンダは日中友好のシンボルとみなされている。

《蛇足》宮崎駿先生の初期の名作アニメ『パンダコパンダ』は早くも1972年の12月公開。当時5歳のご子息吾朗さん（『コクリコ坂から』監督）のために作ったと言われている。名台詞は「いい竹藪ですねエ」。

1966～1977年の出来事は、プロレタリア文化大革命と同時並行である。

1979年1月、カーター大統領は、米中の正式国交を樹立した。